

丸山湿原群保全の会会報

(第 219 号)

発行日：2025 年 (R7) 10 月 15 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com



戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します

いよいよ 10 月。今年の中秋の名月は見事でした。あと 3 ヶ月で年越し。本当に 1 年なんて「あっと」いう間。「夏」という季節だけが妙にゆっくりと進んでいる感じです。

夏の長さとの関係があるのかわかりませんが、とにかく花の咲きだしが遅い！ま～結局咲いてはいるのですが、妙です。ただ、果実類は豊作と言えるようです。(近畿圏?) 柿はたわわに実り、栗も「不作？」という話がありましたがそうでも無い？黒枝豆も上々。(これも畑によるようですが) 山に入ってみると、柴栗、山柿、ドングリ、ガマズミ類もたくさん実っています。

ニュースをにぎわせている「クマ騒動」。切実な問題ではあるようですが、兵庫県に限っては今年は食糧難になっていないようです。ブナやコナラの当たり年。

専門家の話によると、実はこの「当たり年」が翌年に恐ろしいことを引き起こすことが多いらしい。栄養を蓄えたクマは多産になり、総数が増える。ところが、当たり年の次の年は「大不作」ということが多いそう。そういえば柿は昨年ならなかった。食べるものを求めクマはさらに人里へ。里山という緩衝地帯がほぼなくなり、山から顔を出せばすぐそこに食べ物(畑)や人がいる。カキの木や栗の木も放置。来るわな～。総数の問題はさておき、人が山の手入れや利用をしなくなったのが最大の原因だといえそうです。加えて、「気候変動」もドングリ類の出来不出来の周期に影響している可能性が高いとか。数が増えすぎているのならシカ同様、頭数管理も必要だと思います。「熊撃ち」は難しい。一般的な散弾銃では歯が立たず、スラッグ弾やライフル弾(単発)が必要とのこと。警察官の拳銃では弾が小さすぎて弾き飛ばされるそうです。そこで「猟友会」の出番となります。(あまり出たくないようですが…)

できれば大騒ぎをすることなく、共存(狩猟はしても)していきたいものです。

(今住 10月12日作成)

ガイド養成ツアー ★網引湿原 9月27(土) 17名

資金が底をつきかけている企画ですが、今年も何とか実施することができました。今回はずいぶん昔から交流のある「網引湿原」です。「丸山湿原ガイド講座」2015年2月に、同タイプの湿原視察として伺っていて、会としては10年ぶりの訪問。その時は網引湿原は整備の真っ最中。付近の杉を保存会が自ら伐採し木道を建設。その様子を見学。「南網引町公会堂」では豚汁などの歓待を受けたのを憶えています。なぜか「丸山湿原テスト」なるものもやったような…。保存会の会長は変わらずパワフルな山下さん。加えて柴田さん、高田さんの3人にガイドをしていただきました。



播州平野らしい開けた湿原イメージ

あいさつの後、最初に飛び出した発言が「アゼオトギリ（畔弟切）が最近見つかりました！」。オトギリソウ、コケオトギリ、ヒメオトギリはよく目にしますが驚きでした。名前の通り田んぼの畔などに生えているようで、圃場整備や棚田の放棄などにより激減したとか。兵庫では絶滅危惧種Bランク。環境省では1B(EN)にランクされています。



激レア？ アゼオトギリ

湿原に向かう途中の整備された水路際の畔にそれは咲いていました。こんな所に…確かに花はオトギリソウそっくりで大きい？花や葉に暗点（黒い点々）あり。（伝説の血痕とも）地べたにへばりつくように咲いていました。畔の「草刈り圧」に適応してきたのか？農業者には邪魔な草（雑草）。この畦については山下さんが草刈りをしているそうです。（刈らないでとお願い？）ちなみに山下さんは農家ではありません。ご苦労さんなことです。

網引湿原は西脇市南東部、播州平野の小高い丘？山？の中腹標高80m前後にあります。規模は、丸山湿原（宝塚市）、皿池湿原（三田市）と同程度？この3つはどれも「兵庫県下最大規模の滲水（湧水）湿原」を謳っています。地質に多少の違いはあるものの、基本同じような植生・生き物が見られます。共通の課題は「ほっといたら消える湿原」。

網引湿原と皿池湿原は谷池の上部に広がり、丸山湿原は薪炭林の谷地に成立。人の生活と密接に関係してきた「里山」。3つとも県天然記念物指定。しかもとても珍しい「人が手を入れ続ける天然記念物」です。「天然」が奇妙に響きますが…画期的な保全指定ではないのでしょうか？



10年前設置途中のスギ木道

同じような成り立ちの湿原ですが、それぞれ見られる植物は少し違います。丸山湿原にはウメバチソウが驚くほどあるが他にはない。トウカイコモウセンゴケは網引湿原にのみ。皿池湿原にはヤマドリゼンマイ。氷期との兼ね合いでこうなったのか、湿原の盛衰によって違いが出るのかはよく分かりません。



丸山にはないトウカイコモウセンゴケ



今回歩いた同じ木道 交換予定

い方」だと納得しました。武道場の床の張替えや、ホールの改修に使うのはちょっと違うのでは…と嫌味を。（誰にかはご想像にお任せします）

トウカイコモウセンゴケ（東海小毛氈苔）を観察しながら、湿った山際を進むとシュロソウ（棕櫚草）が。ガイドの目の色が変わり「これは危険な植物です」と。見たことも無い植物でRDにもランク無し。アルカロイドを多く含み、煮ても焼いても「死の恐怖」が付きまとうとか。若芽がオオバノギボウシに似ていることから、事故が絶えないとネットに出ていました。ちなみに日本三大毒草なるものもあるそうで、それは「トリカブト、ドクゼリ、ドクウツギ」だそうです。シュロソウは残念？ながら入っていませんでした。この中のドクゼリは「兵庫県絶滅（EX）」になっています。セリを見つけて食べても安



これぞ毒草 シュロソウの花

心？発想が変です。スイセンとニラを間違えて、亡くなる方も毎年のように出ます。キノコも含め、野生の物を口にするときは慎重に。やっぱり変か…？ちょっとやったら口に入れて試す…と言うのが持論ですがマネしないように。

湿原を進みます、そこかしこにサワシロギク（沢白菊）が咲いています。これも丸山にはない。



色が変化し始めたサワシロギク
の意見交換をしてバスに戻りました。

皿池にはある。咲き始めは真っ白、時間の経過とともにピンク・紫に変化します。こんなにたくさん見られるのは珍しいのでは？また湿原中央部にはタムラソウ（田村草）もたくさん。同じキク科ですがこちらはアザミそっくり。背の高いキセルアザミかと間違えそうでした。タムラソウも丸山にはないな～。その後少し保全方法



(参考) タムラソウ 西谷某所で撮影

これで終わりかと思いきや…今年、戦後 80 年の節目。「戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します！」を標榜していますので「鶉（うずら）野飛行場」の「SORA かさい」へ。見学程度と考えていたのですが、なんと山下さんはこの筋の超関係者。「そこらのガイドより詳しくガイドします」と防空壕や爆弾庫、砲台跡などを詳しく説明しながら案内してくださいました。

<https://www.city.kasai.hyogo.jp/site/uzurano/50527.html> ←（詳しくはこちら）



戦跡ツアーガイド 山下さん

特攻隊の訓練飛行場と言う悲しい歴史はありますが、1200mもの滑走路が戦後 80 年もそのまま残っていることに奇跡を感じます。また付近の砲台跡や防空壕、爆弾庫が残ったのは、戦後「兵庫県立兵庫農科大学」が設立されたため。その後「神戸大学農学部」に。その農地の中に点々と戦跡があったが、費用面で撤去せず放置されたそうです。（間違ったらごめんなさい）播州平野の広さが土地利用上問題なかったのかもしれませんが。

この飛行場でテスト飛行した機体は「川西航空機（現新明和工業）」が製造。宝塚市の阪神競馬場と今の新明

和工業も戦前は川西航空機の工場跡。宝塚で唯一空襲を受けたのはここだけです。関西学院や小林



ここは爆弾庫 特に頑丈な作り



名機 紫電改 自動消火装置付き エンジンパーツは宝塚から

聖心女学院、宝塚歌劇団からも女子挺身隊として軍用機部品を作りに行っていたようです。他にもいたかもしれません。「SORA かさい」に展示されていた「紫電改＝極地戦闘機」は終戦間際の名機ですが、これに使われた 18 気筒エンジンの部品も宝塚製ということになります。

湿原と戦闘機、真逆の取り合わせのようですが何か繋がりを感じました。「戦争を起こしてはいけない」と実感した研修でした。

何やら来年加西市でイベントがあるようです。

最後に山下さんが、『来年加西にあの「青い衝撃」を

飛ばしてやる!』と息巻いておられました。(多少の誇張あり) 実現を期待しています。

なんの話か分からなくなってきましたが、「加西市」面白いところです。ぜひ網引湿原含めてご訪問ください。北条鉄道も可愛い! 気球も飛ぶまち加西! バスは走っていないけどね…どこも厳しい。

定期活動 ★基礎調査 10月11日(土) 6名で調査 やっぱ水が…ない! 雨よ!

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
丸山	20	35	入口	10:00	22.9℃		
ハイキング・登山	39	63	第3湿原	10:55	24.6℃【19.8℃】	82.6 μ S/cm	6.7
散歩	10	15	視点場	11:05	26.4℃	水なし	—
			第1湿原	11:15	27.1℃【25.0℃】	37.2 μ S/cm	6.1
			第2湿原	11:40	25.4℃【25℃】	30.9 μ S/cm	6.4

来場者数計 182 人

(竹筒ポスト集計)

やっと秋めいてきました。駐車場のイチョウ(銀杏)も実を落とし、ステキな匂いを漂わせています。それ(銀杏=ぎんなん)を拾って食べる人間も不思議…果肉は食べませんが。でもジャムにできそうやな〜。調べてみるとあの匂いは人間の「ゲロ」失礼「吐瀉物」の匂い成分と同じ。「確かに…」納得。「酪酸」という酸で毒ではない? 整腸作用あり。大腸でものすごくいい働きをするそう。でもジャムには誰もせんわな?



酪酸の香り イチョウの実

あり「ビタミン B6 欠乏症」を引き起こす。たくさん食べると下痢やけいれん、最悪死ぬことも。食べ過ぎに注意! 特に子どもは中毒を起こしやすいので気をつけて。

駐車場付近にはアケビ(木通)の実やヤマノイモ(山の芋=自然薯)のムカゴ、ヤマガキ(山柿)などが実っています。14日は西谷小学校の環境学習。秋の味覚にありつけるか? 報告は次回。

道に入ると今年はなぜかツルニンジン(蔓人參)が多数花を咲かせています。別名「ジイソブ」爺さんのそばかす(シミ?)だそうで花の中に点々と模様が。お目

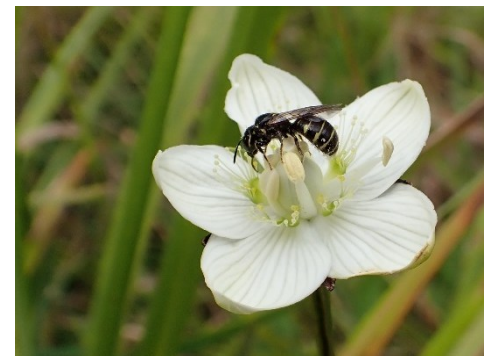


ツルニンジン 結構綺麗な爺さんです



宇宙生物? ハリガネムシ 動いています

にかかったことはありませんが「バアソブ」というひと回り小さい同じような花(植物)もあるそうです。これが竹筒ポストまで点々と咲いています。タイミングか? 毎年咲いていたのかもしれませんが。そして竹筒ポストカウント後、川をチェック。石をめくるとハリガネムシ(針金虫)が…宇宙生物のようです。生命の神秘



を感じます。これから卵を産み複雑な連鎖を経てカマキリから川へ。よ〜わからん!

湿原ではやっとウメバチソウ(梅鉢草)が咲き出しました。これも丸山湿原を代表する植物。特に全盛期の第3湿原は圧巻です。月末ぐらいか? スイラン(水蘭)も開花中。ぜひお越しください。キノコもそこそこ、ソライロタケ(空色茸)もありました。

ウメバチソウ キオビツヤハナバチ? を載せて



ソライロタケ

次回活動日 10月26日(日) 11月1日(土) セミナー 8日(土) 23日(日)